

新東名高速道路建設に伴い失われた湿地の植物の保護

森林公園には複数の湿地があり、1970 年代よりモウセンゴケ、シラタマホシクサ、イワショウブ、ミズギク、ミミカキグサといった湿地特有の希少な植物が多数確認されています。しかし湿地は、場所によっては手入れがされなくなると植生遷移が進み、湿性植物が生育しづらくなります。1990 年代には三番池上流湿地は遷移が進み、右写真のように木や高茎草が生え、湿性植物は減少していたようです※4。



1996 年（平成 8）三番池上流湿地 復元前 画像提供：遠州自然研究会



復元地点図 ④ 1996 年（平成 8）8 月 15 日撮影 三番池上流湿地 「雑木・雑草を除去し、湿地を復元」 画像提供：戸田英雄氏

森林公園のすぐ南を通る新東名高速道路が計画されたのは、1989 年（平成元）です。建設予定地には、公園に隣接する場所で、湿性植物の生育する湿地が含まれていました。地域の団体「遠州自然研究会」は 1996（平成 8）～98 年（平成 10）に遠州地方の水生・湿生植物の保護・保存活動※2 の一環として、三番池上流湿地を整備しました。そして高速道路建設により消失する湿生植物の移植を行いました。

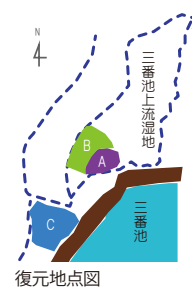
復元地 AB には、シラタマホシクサ、サワギキョウ、ノハナショウブ、モウセンゴケ、トウカイコモウセンゴケ、イワショウブ、ミズギクなどが移植されま



復元地点図 ⑤ 1997 年（平成 9）撮影 三番池上流湿地 「水辺の復元」 画像提供：遠州自然研究会

したが、今、すべての種が定着しているわけではなく、シラタマホシクサなど生育条件が合ったものが見られるようです。

現在は、森林公園ボランティアの会がその志を継ぎ、湿地の保全活動を行っています。



復元地点図

協力 遠州自然研究会

参考文献・資料 ※1：「浜北森林公園内の昆虫相」渡辺一雄（1974）、※1：（「浜北市森林公園の昆虫相調査報告」渡辺一雄（1975）、※2：「FGF 助成活動報告書 手づくりの湿地と水辺の復元活動 遠州地方の水生・湿生植物の保護・保存の活動」遠州自然研究会（1999）、「赤佐小学校百年の歩み」赤佐小学校 PTA118-119 頁、「濱名郡赤佐村誌」赤佐尋常小学校（1913）、「静岡県植物誌」杉本順一（1984）、「静岡県立森林公園の植物」静岡県立森林公園運営協議会（1979）、「浜北市史 通史上巻」浜北市長 森島宏光 発行、「浜北市史 通史 下巻」浜北市長 森島宏光 発行

ビジターセンター バードピア 浜北

自然情報の発信、自然体験プログラムなどを通じて、静岡県立森林公園の自然の魅力を発信しています。

- 入館料：無料
- 開館時間：9:00～16:30
- 休館日：水曜（祝日の場合は翌日）と年末年始（12/29～1/3）

木工体験館

気軽に木工を楽しむことができます。工具はそろっているので、手ぶらでお立ち寄りください。

- 木工：金・土・日
- 開館時間：9:00～16:30 初回利用時に「初心者利用講習」受講が必要です。
- 休館日：月・火・水と年末年始（12/29～1/3）
- 問合せ：☎ 053-583-1559



静岡県立森林公園 今昔 3 三番池上流湿地 スポーツ広場

前回に続き、明治時代の地形図と、古い年代の空中写真で公園の変遷をたどります。

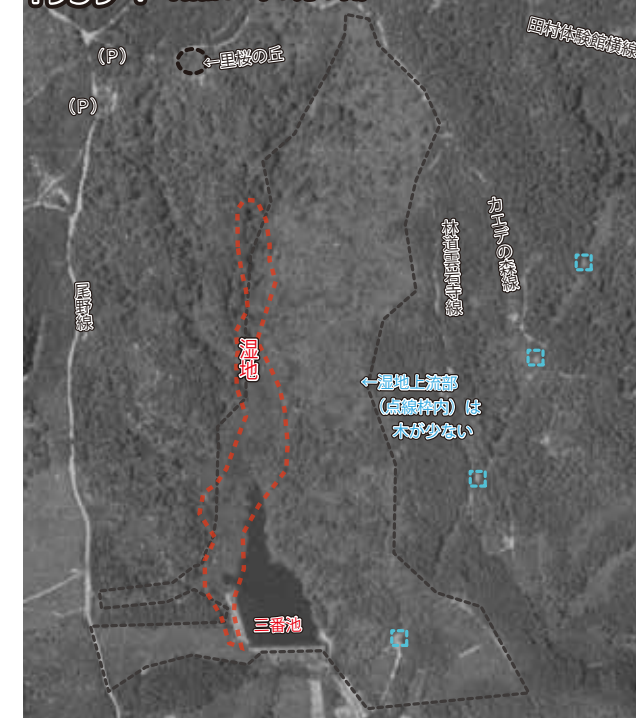
空中写真で見る【三番池上流湿地】溜池はいつから？

「赤佐小学校百年の歩み」によれば、現在の三番池上流湿地の南に位置する東ノ谷池（一番池）は、1607年（慶長 12）に堤防落成、その北の二番池は1868年（慶応 4・明治元）に領主に修理助成を請願したという記録が古文書に残り、そして三番池は、村営事業として昭和20年12月1日に鍬入式を行い新設された新しい溜池と記されています。ただ1913年（大正2）発行の「濱名郡赤佐村誌」に掲載される地図には、三番池と思われる場所に、サイズは小さいけれど溜池のような印が描かれています。また明治の地形図では、三番池の下に水田記号が記されています。そのため、三番池はしっかりした溜池ではなく小さな池のようなものとして少なくとも大正時代からは存在したのかもしれませんが。



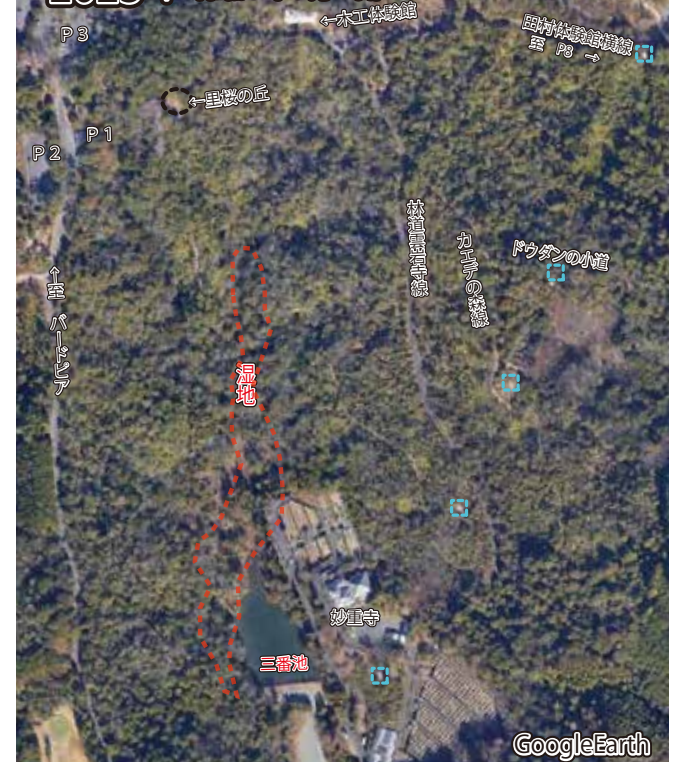
「s 835 龜玉村 1890（明 23）」（国土地理院）を彩色・加筆加工して作成
自然観察林付近は針葉樹林、その北東は荒地マークとなっている。

1959 年（昭和 34 年 5 月 8 日）



「CB591YZ-P-28-90 1959/05/08（昭 34）」（国土地理院）を加筆加工して作成
全体的にアカマツはまばらに生えているが、とりわけ点線内は樹木が少ないようだ。小柴下草の刈られた荒地地状態だったのかもしれない。

2023 年（令和 5 年 5 月 1 日）



1959 年（昭和 34）画像で、点線部分は樹木がかなり少ないが、2023 年では、主に広葉樹が高木化している。

空中写真で見る 【スポーツ広場周辺】 公園開設から 約10年は水田

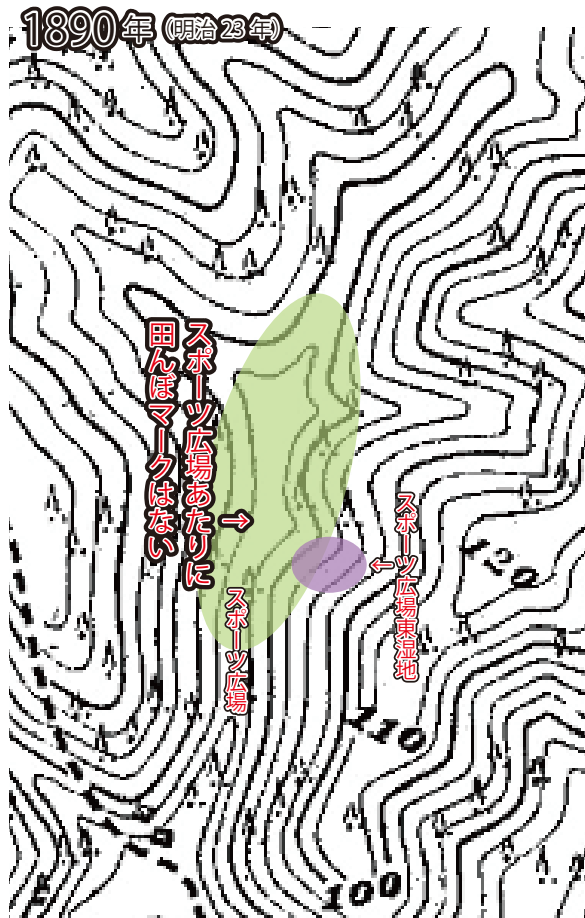
○スポーツ広場

現在、芝生が一面にひろがるスポーツ広場は、家族などでボール遊びやバトミントン遊びが楽しめる開放的な場所です。水田を埋め立てて造成されたのは1974年（昭和49）のこと。広場の東には現在も有隣川が、西には山の染み出しによる小さな水路あります。そして北には、明治以降に築造されたという西ノ谷奥池があります。かつてはこの水で営農していたのでしょ

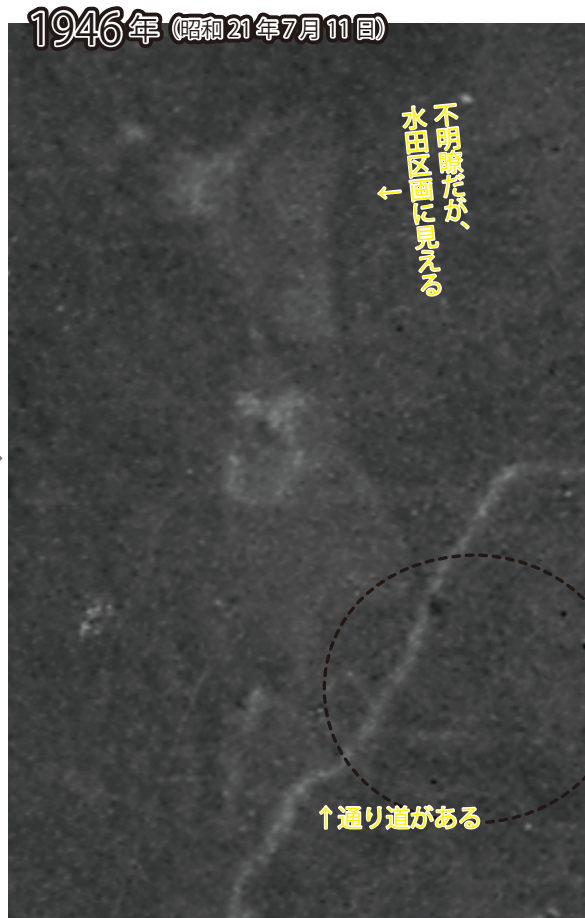
う。
1972年以前の空中写真を見ると田んぼの区画跡がはっきりと見えます。公園の開設は1965年（昭和40）ですから、公園となってから10年近くこの場所は、水田区画が残された「里山」の風景がひろがっていたのですね。現在も初夏にゲンジボタルやヘイケボタルが少し舞いますが、かつてはここでホタルの乱舞がさぞかし盛大に見られたことでしょう。また地域の方によれば、スポーツ広場が整備される前、ここでは湿生植物が多く見られたとも聞きます。

○スポーツ広場東湿地

スポーツ広場東湿地も1959年の写真から、湿地周辺は広範囲にアカマツ疎林であったことがわかります。1973年～1975年に実施された昆虫相調査※1では、ハッチョウトンボについて「遠州随一の発生地と考えられる」とあります。2013年（平成25）までは一度に100頭を数える日もありましたが、残念ながら今は姿を見ることはありません。



「s835 鹿玉村 1890（明23）」（国土地理院）を彩色、加筆加工して作成
現在のスポーツ広場、西ノ谷奥池周辺は針葉樹マークとなっている。



「USA M191-A-5 14 1946/07/11（昭21）」（国土地理院）を加筆加工して作成
現在、スポーツ広場東湿地を通る散策道には、当時から通り道がある。



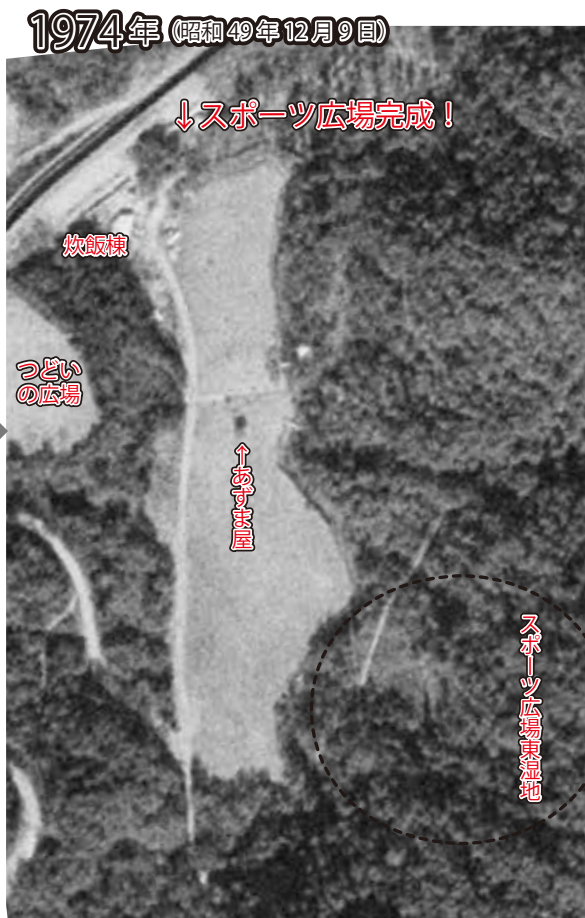
「CB591YZ-P-28-90 1959/05/08（昭34）」（国土地理院）を加筆加工して作成
アカマツはまばらに生えている。かつては、谷から尾根まで地面が見え、マツタケの発生が確認できたと聞くと、それも理解できそう。



「MCB664X-C1-4 1966/09/27（昭41）」（国土地理院）を加筆加工して作成
西ノ谷奥池は明治以降の築造とされる。この写真では水田区画がはっきりと確認できる。



「MCB727X-C6B-13 1972/10/02（昭47）」（国土地理院）を加筆加工して作成
1974年（昭和49）まで現スポーツ広場は一部民地だった。1972年（昭和47）昆虫調査（渡辺）では、園内湿地でハッチョウトンボが多数確認され、「県内随一の産地」と記される。



「CB7413Y-C6A-12 1974/12/09（昭49）」（国土地理院）を加筆加工して作成
1974年（昭和49）7月にオープンしたスポーツ広場。前年までの水田区画はもう見えない。健康増進の広場として全面芝張となった。



「CCB7620-C13C-5 1976/09/15（昭51）」（国土地理院）を加筆加工して作成
スポーツ広場東湿地に樹木は見られない。現在の第七駐車場（P7）になっている場所はまだ樹林となっている。



スポーツ広場にはイノシシ除けの柵が設置された。樹木はアカマツ、広葉樹ともに樹高は高く、樹幹は広がり、樹林化が顕著となった。